

# -市民アンケート結果-

## ■市民アンケートの実施概要

### 【目 的】

#### ○安曇野の地下水保全に関する市民意識の把握

- ・地域資源としての地下水に関する意識
- ・地下水の保全に関する意識
- ・地下水保全に向けた取組みに関する意識

#### ○地下水の保全に関する意識啓発等→現状説明資料を添付

#### ○シンポジウムを周知→シンポジウム開催のチラシを同封

### 【実施期間】

#### ○平成23年7月1日～22日

### 【対象者・調査方法】

#### ○対象者：安曇野市民1,500名

（住民基本台帳から20歳以上の個人を無作為抽出）

#### ○調査方法：郵送配布・郵送回収

### 【回収結果】

#### ○回収数：574票 （回収率38.3%）

## ■市民アンケートの実施概要

3

### ◇アンケート内容 →調査票参照

| 構 成                | 設 問 内 容                                                                                                                                                                                                      |
|--------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 地域資源としての地下水に関する意識  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・安曇野市にとって、地下水は大切な資源と思いますか。</li> <li>・水道水の大部分が地下水を利用していることを知っていましたか。</li> <li>・地下水は誰のものと思いますか。</li> </ul>                                                              |
| 地下水の保全に関する意識       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地下水が減少傾向にあることを知っていましたか。</li> <li>・湧き水に関連して、心配と思うことは。</li> <li>・地下水を保全に取り組むべきと思いますか。</li> <li>→地下水を保全する場合は、誰がやるべきと考えますか。</li> <li>→保全に取り組む必要がないと思う理由は何ですか。</li> </ul> |
| 地下水保全のための取組みに関する意識 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地下水を保全するために、どのような取組みを行うとよいと思いますか。</li> <li>・普段から節水に取り組んでいますか。</li> </ul>                                                                                             |

## ■市民アンケート結果

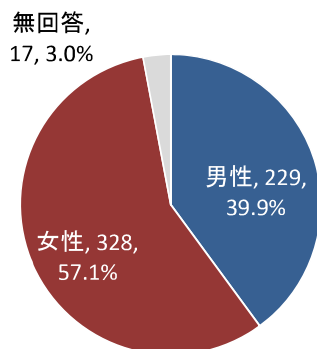
4

### ◇回答者属性 1

#### (1) 性別

- ・男性に比べ、女性の割合がやや高い

【グラフ数値：選択肢、回答数、割合%】

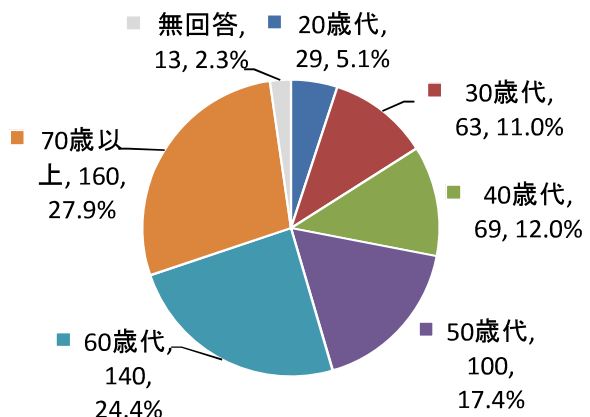


[全市の割合と1割程度の差]  
(全市20歳以上集計：男性48.1%、女性51.9%)

#### (2) 年齢

- ・70代以上および60代が多く、あわせて約半数を占める
- ・20代～50代があわせて約半数

【グラフ数値：選択肢、回答数、割合%】

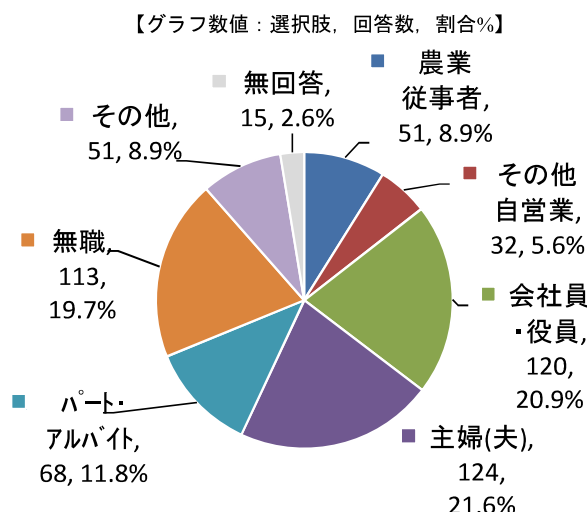


[全市の割合と比べて60歳以上が1割程度多い]  
(全市20歳以上集計：20歳代10.9%、30歳代16.5%、40歳代16.3%、50歳代15.1%、60歳代18.6%、70歳代以上22.6%)

## ◇回答者属性 2

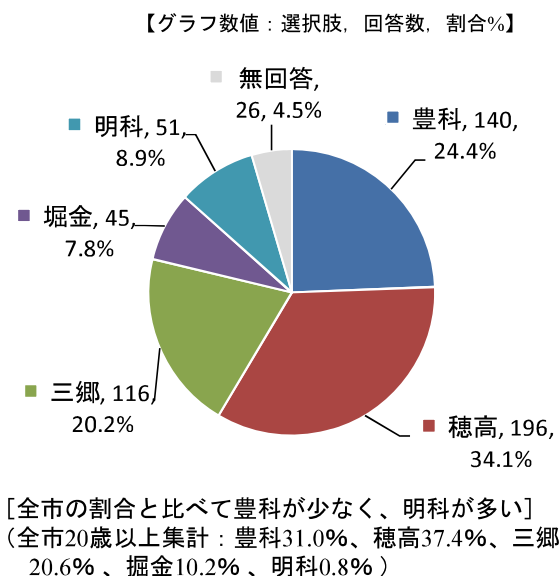
## (3) 職業

- ・会社員・役員、主婦（夫）がそれぞれ2割を超える
- ・その他、無職やパート・アルバイトの割合が高い



## (4) 住まい

- ・穂高が最も多く、豊科、三郷とつづく



## ◇結果の分析 1

## 【地域資源としての地下水に関する意識】

- 市民の大多数の方が地下水は大切な資源と感じており、地域資源としての**地下水に対する意識は高い**。
- 地下水は『みんなの共有財産で公のもの』という意識が高く、**地下水＝公水**という感覚が持たれていると考えられる。
- 一方で、水道水の大部分が地下水であることの認知は半数程度であり、**地下水利用者としての感覚は強くはない**。（年代が高い程認知されている）

## ◇結果の分析 2

## 【地下水の保全に関する意識】

- 地下水が減少傾向にあることはメディアや市の広報などを通じて広まっているものの、**半数程度にしか認知されていない状況にある。**（年代が高い程認知されている）
- 湧き水に対しては、『**水質悪化**（特に50・60歳代が高い）』『**地下水の減少**（特に30歳代が高い）』『**地域産業・観光への影響**』が懸念されている。
- 地下水保全に対する意向は強く、特に、**市民・企業・行政の協働の取組**が求められている。

## ◇結果の分析 3

## 【地下水の保全に取組みに関する意識】

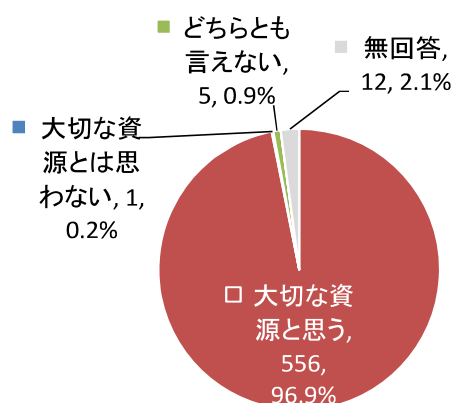
- 地下水保全の取組みとして、特に『**意識啓発**』や『**量だけではなく質の保全**』が求められている。
- 取組主体別には主に以下の取組が求められている。
  - 市民：**節水（※）、雨水浸透施設** 等
    - ※普段から節水に取り組んでいる方が半数以上。
  - 企業：**水質保全、取水ルール、雨水浸透施設** 等
  - 農業従事者：**休耕田水張り・冬水たんぼ** 等
  - 行政：**市民等への意識啓発** 等

## ◇市民アンケート結果

## 問1. 地下水は大切な資源だと思うか？

- ・ 大多数の方が、地下水は大切な資源だと感じている。
- ・ 地域別、年齢別には大きな差はなく、多数の方が大切な資源だと感じている。

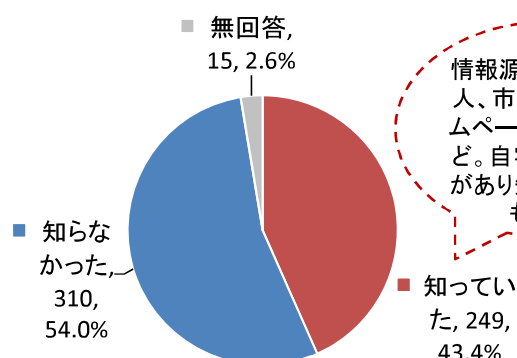
【グラフ数値：選択肢、回答数、割合%】



## 問2. 市の水道水の大部分は、地下水を利用していることを知っていたか？

- ・ 知っていた方に比べて、知らなかった方がやや多い。
- ・ 地域別には、明科が6割程度知っており、他地域に比べて1割程度高い。
- ・ 年代別には、20～50歳代では知っているのが3割程度であるのに対し、60歳代では5割程度、70歳代では6割程度である。

【グラフ数値：選択肢、回答数、割合%】

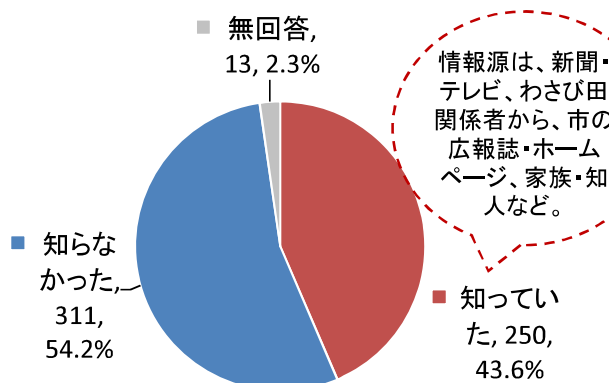


## ◇市民アンケート結果

## 問3. 湧き水の量が減少傾向にあることを知っていたか？

- ・ 知っていた方に比べて、知らなかった方がやや多い。
- ・ 地域別には、穂高では知っている割合が5割程度と他地域より高い。
- ・ 年代別には、年代が高くなるほど知っている割合も高く、60歳代・70歳代では5割程度となる。

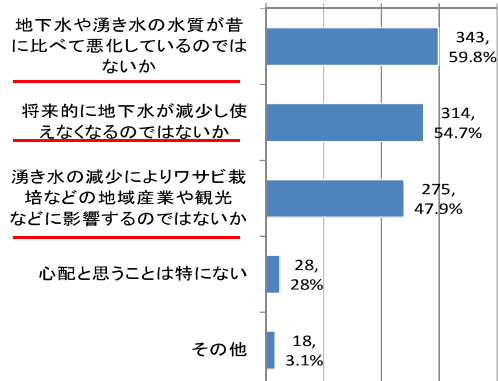
【グラフ数値：選択肢、回答数、割合%】



## 問4. 湧き水に関して、心配に思うこと

- ・ 特に、『水質の悪化』や『将来的に地下水が使えなくなる』ことが心配されている。
- ・ 50歳代・60歳代では『水質の悪化』の割合が7割近い。30歳代では『将来的に地下水が使えなくなる』の割合が7割近い。

【回答者数に対する割合%】

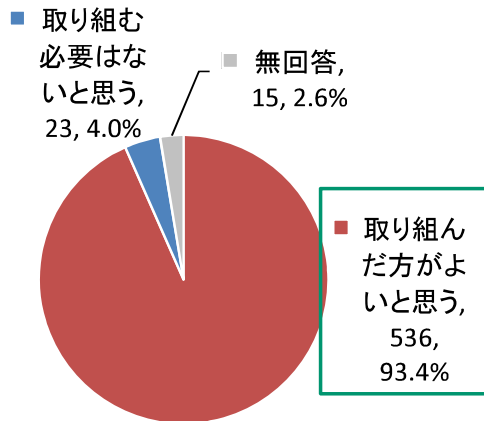


## ◇市民アンケート結果

### 問5. 地下水の保全に取り組むべきと思うか？

- ・ 大多数の方が、地下水の保全に取り組んだ方がよいと考えている。
- ・ 地域別、年齢別には大きな差はなく、多数の方が取り組んだ方がよいと考えている。

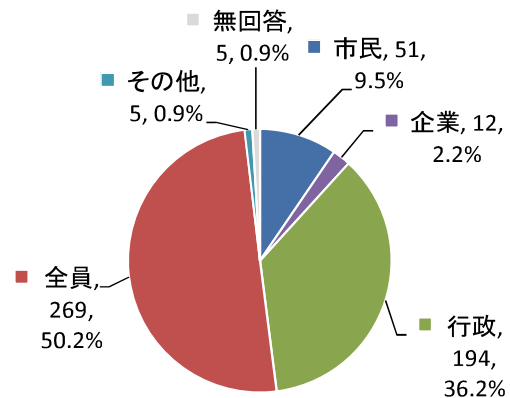
【グラフ数値：選択肢、回答数、割合%】



### 問5-1. 地下水保全は誰が取り組むのがよいか？

- ・ 『市民、企業、行政全員』が最も多く、『行政』がつづく。
- ・ 地域別には大きな差は見られない。
- ・ 各年代ともに全体と類似の傾向であるが、20歳代では行政の割合が5割弱とやや高い。

【グラフ数値：選択肢、回答数、割合%】

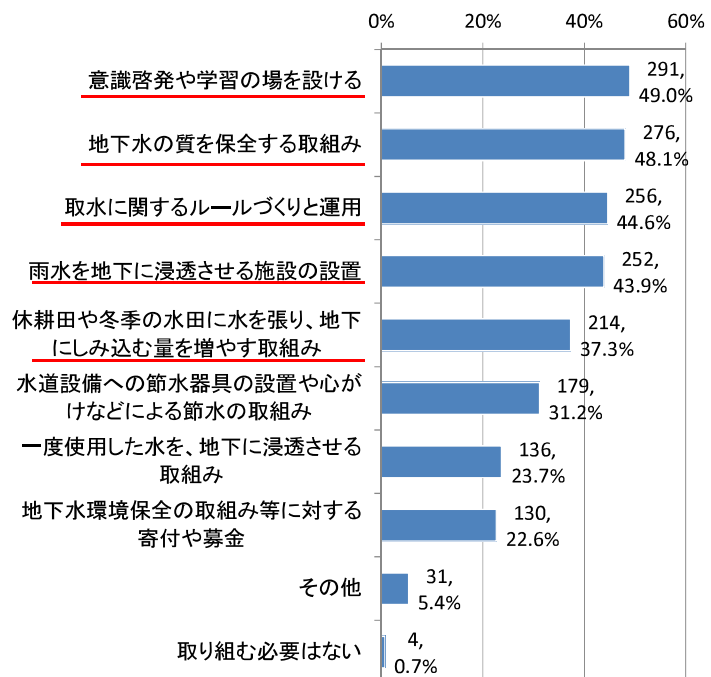


## ◇市民アンケート結果

### 問6. 地下水保全のために、どのような取り組みが必要と思うか？

- ・ 特に、『意識啓発や学習の場を設ける』こと、『量だけでなく質を保全する取り組み』が求められている。
- ・ 地域別、年代別には大きな差は見られない。

【回答者数に対する割合%】

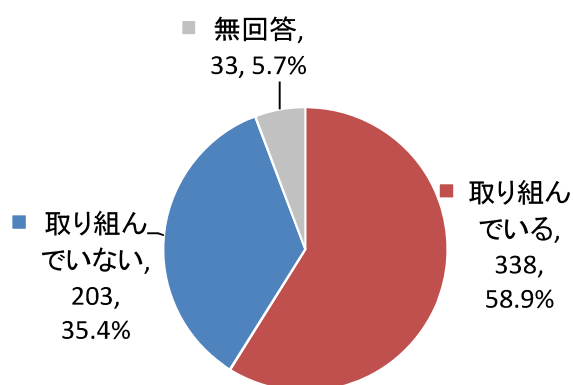


## ◇市民アンケート結果

## 問7. 普段から節水に取り組んでいるか？

- ・半数以上の方が節水に取り組んでいる。
- ・年代別には、取り組んでいる割合が30歳代～70歳代以上は5～6割程度であるが、20歳代は3割程度と低い。

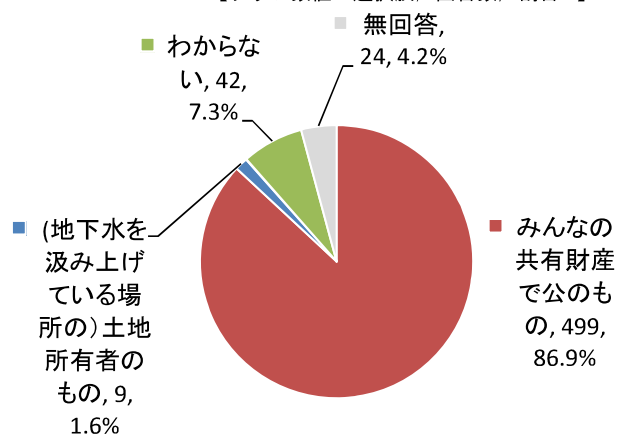
【グラフ数値：選択肢，回答数，割合%】



## 問8. 地下水は誰のものと思うか？

- ・『みんなの共有財産で公のもの』という意識が高い。
- ・地域別、年齢別には大きな差はなく、多数の方が『みんなの共有財産で公のもの』と回答している。

【グラフ数値：選択肢，回答数，割合%】

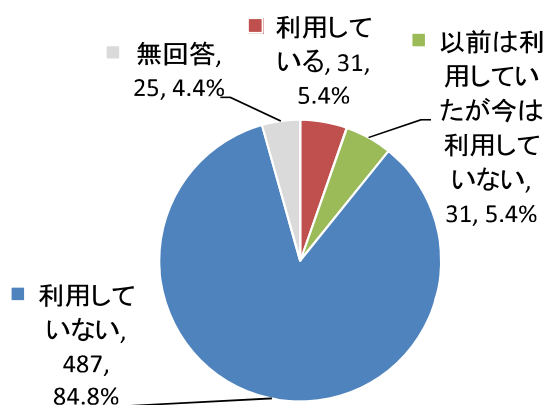


## ◇市民アンケート結果

## 井戸水の利用状況

- ・井戸水を「利用している」、「以前利用していた」あわせて1割程度。

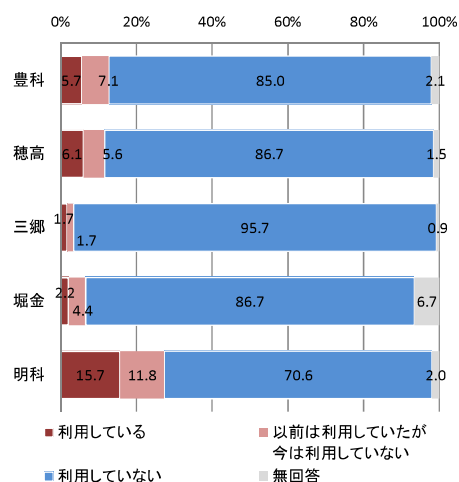
【グラフ数値：選択肢，回答数，割合%】



## 地域別

- ・明科地域が最も多く、豊科地域と穂高地域が同程度。
- ・堀金地域、三郷地域はやや少ない。

【グラフ凡例：地域回答数に対する割合%】



# ■ 指針への市民意見の反映方針（案）

15

## ◇ 指針(案)の目次構成(案)

## ◇ アンケート結果

